

「さねとう あきら先生を偲ぶ会」を開催して

発起人代表 小高誠太郎

去る3月7日、児童文学・劇作家さねとうあきら先生が旅立たれました。先生には、私たち狭山市文化団体連合会（文団連）の設立間もない2001年、第1回狭山市民芸術祭から大変お世話になりました。このたび、文団連の有志が発起人となり「さねとうあきら先生を偲ぶ ～作品と世界観～」を企画・開催させていただきました。

さて、開催案内をどう配るか、です。勿論、文団連関係の皆さんにお願いし、また、個々にお知り合いの方に当たっていただくこと。更に、先生の奥様にもお願いすることにしました。しかし、参会者の目処も皆目把握できないまま、当日を迎えることとなりました。会場は市民会館小ホールです。



7月16日(土)の当日、天気は曇り。雨ではなく、ほっとしました。9時スタッフ集合、舞台セッティング、リハーサルなど。13時受付開始と同時に出足がよく、遠くは福岡、名古屋からのお方を含め250名近くの参会者があり、先ずは安堵したわけです。

偲ぶ会については、追悼の言葉はじめ、歌・朗読・語り芝居と、出演者の熱演で感動を与える内容でした。さねとう先生も喜んでおられることと思います。また、奥様や家族の皆さまからも感謝のお言葉をいただいております。



経費を差し引いた余剰金を、御霊前に供えさせていただきました、ご参会の皆さま、ありがとうございました。文団連の皆さまには、スタッフを始め大変お世話になりました。発起人代表として厚く御礼申し上げます。

なお7月18日(月)の埼玉新聞に偲ぶ会開催の記事が大きく掲載されたことを申し添えます。

発起人の皆さんお疲れさまでした。

これからも、さねとう民話を語り継いでいきましょう。

(小高誠太郎氏は、文団連初代会長・現顧問)

常任理事会便り

PLAN～DO～CHECK～ACTION、つまり、計画を立て～実行し～振り返り～改善する。会社では、事業や業務遂行における基本的行動要素である。

我が文団連においても、自主事業に関しては実行されていると言えるが、それ以外の年間重点項目に関しては、明確なプランニングも出来ていないものもある。というわけで、本年度の重点項目に関して、年度半ばにおける取組進行度合いのチェックを行っています。残る半年、優先順位を付けて、着実な実行計画を立てたいものです。

今月の投稿文芸作品

「ふるさと」 風光る 川辺に大き 鳥の影 山下陽子
「いのち」 身をけずり 産^{さんお}了へ流さる 鮭一尾 小山義則

小川事務局長